

デンマークの友人との交流

レポート 長内敏之

★3回目のデンマーク

私にとって今回の、2016年9月24日から10月2日の視察の旅は、2004年8月15日から23日、2008年8月17日から25日、についで3回目のデンマーク、ロスキレ視察の旅でした。

最初の訪問は、日本でも介護保険が議論されていたところで、それまでは、見たことが無いデイサービスの事業所の車が市内を走り回り始めた頃でした。また自治体でも構造改革、町村合併などがあれよあれよという中で進んできた時期でもありました。

デンマークやスウェーデンでは社会福祉なんて言葉がないんだよ。国や県、市が行うのは社会事業すべては福祉が目的だからことさら福祉とって差別化する文化はないんだよ。そんな話を聞いて、何のコッチャと混乱した頭でスカンジナビア航空の直通便でデンマークの地を踏みました。

★この方についていけば大丈夫

このツアーを紹介してくれたのは、私の先輩議員の小沢康子さんです。彼女の議会の発言でも時々「私の見てきたデンマークではこうです。」という言葉が出てきます。なんと自分の目で見てきた事実に裏付けされた、言葉の重みです。私も行きたいと思いました。

コペンハーゲンの空港に入ったときに驚くのが男子の小便器の高さが高い。思わずつま先立ちになってしまうほどの高さです。そこで日本人の平均の足の長さでは北欧ではまったく規格外の長さのものであることが分かりました。そうか平均的な日本人も、北欧ではチンチクリンの変なおじさんということかと落ち込んでしまいました。



<補助器具センター>

しかし、それにしてもデンマークの若い女性たちの姿勢がピンとして、スタイルがよくて颯爽として歩いている姿にまた驚きました。日本に来ればみんなモデルさんだね。そこへ現れたのは日本人だという澤渡夏代ブランドさん。背が高く、姿勢がピンとしてスマートな女性でした。そのスマートさは、日本語の体が細いということだけではなく、頭が切れて、しぐさも洗練されて、右も左もわからず、うろうろしているおのぼりさんのような日本人たちには天使のように見えたものです。この方についていけば大丈夫と感じたのは私だけではないでしょう。

★仲間がいっぱい

2004年の視察では奈良の病院長谷掛先生、京都の病院長の門先生、家族で来られていた当時、川崎の病院の佐藤先生などがおられました。門先生はスポーツマンで若い方を誘って毎朝散歩コースとは別にランニングサークルを作って早朝のロスキレの街を走り抜けていました。私も何回かついていきましたが、重そうでしたねといわれてしまいました。谷掛先生は何度も参加している常連です。

皆さんにお配りするための写真の印刷機や記録用の小型のビデオなどを持参してきています。何度も参加すると荷物は少なくするのもですが先生はデンマークで、お世話になる方の御礼のために年々荷物が多くなるようです。

★じゃいこうかな

2008年のデンマーク研修では、最初は中能さんから電話で「まだ空いてるからどう」とのことでした。その一言で楽しかった4年前のデンマーク研修の感動がよみがえってきました。「谷掛先生は今年もいくのかな」つい口からその言葉がでてあのひょうひょうとしたすがたが目に浮かびました。「もちろんいきますよ」中能さんの言葉に「じゃいこうかな」と返事をしたのがその年のデンマーク視察旅のきっかけです。「『ホテルプリンセン』のオーナーはやっぱきれいですか。」「少し、年をとったけど、それはきれいだよ」そんな話をきっかけにして、2度目のデンマークロスキレでした。

ここまで書くと、大変不謹慎に思われるかもしれませんが、視察研修は、それは熱心に参加して、本当は書くことがたくさんあるのですが、原稿の分担がありますので一応誤解なくよろしく願います。

★「ヤーパン、ヤーパン」の掛け声

2回目は、スケッチをするなどの余裕もありました。英語ができる辻さんを頼りにして歩いていたのも思い出です。辻さんはオーストラリアに留学経験がある若い好青年です。障がい者のリハビリ施設ですごい美人のトレーナーが患者さんを指導している姿を見て「あんな美人に指導されたら、よくなってここは出たくないっていいだすよな」などとつぶやくと、辻さんはそれを英語で案内してくれた施設長さんに伝えたもので笑われ

てしまいました。

その年の視察は、高齢者委員会との交流会にロスキレ補助器具センターの所長のメッテさんがこれも若い美人の友人を連れて来てくれました。高齢者委員会との楽しい交流も終わったあとロスキレの1件しかないダンスホールに行くとのことで皆さんでダンスホールへくりだしました。カウンターでお金を払ってビールを受け取る方式です。そこでみんなで大騒ぎ、地元の若者たちが日本からの集団が来ているということでなぜか盛り上がり「ヤーパン、ヤーパン」の掛け声がホールに深夜まで響きわたりました。

★日本の革命的な福祉機器

メッテさんには、私が「日本には革命的な福祉機器がある、なんだと思いますか」「それは洗浄便座です」というと恥ずかしがっていました。彼女は何度か日本にも行ったことがあるらしく洗浄便座は経験済みです。私のいったことは納得してくれました、そこで恥ずかしそうな表情をしてしたのを思い出します。もちろんそれを訳してくれたのは辻さんです。辻さんありがとうございます。その後、メッテさんはコペンハーゲンに転勤して、（おそらくはそうとうに出世して、市の施設長から国の機関らしいが、）その後、メッテさんは日本を訪問してきて講演の機会があったときにワインをもって訪問しました。その時も夏代さんの通訳でした。メッテさんは「ロスキレダンシングチーム」のことをよく覚えてるよと言ってくれました。

★行くことに決めたから、よろしく

2016年のデンマーク視察は、今回が最後らしいという寂しさも胸の奥にしまったの訪問でした。私も、母の介護、みとり。自身の退職、体調の悪さを抱えていました。町内会の会長を務めている関係で結構予定が入

っていて、行事がぶつかっていたのですが職権で日程を変更して、「最後の視察」に参加することにしました。

自身の医院を閉鎖して医者をやめたと言った服部先生と話をしていて、
「今後は、海外旅行したい」といっていたのでついこんな企画があるよと勧めたのが今回のロスキレ視察でした。数日後「行くことに決めたから、よろしく」とのことです。人に勧めておいて自分には行かないなどはできないことですから、そこで覚悟が決まってくことにしました。

視察の日程も最初はよかったのですが、少しずつ8月の後半から9月にかかるようになってきたので議会と日程がぶつかり参加が困難になっていました。今回は議員をやめたことで参加できるようになったわけです。それにしても北欧の冬は早く来るので驚きました。

最初は8月ですから半袖でした、9月末から10月では防寒着が必要ですね。

今回は、1日ある自由行動で服部先生がどうしてもスウェーデン在住の日本人画家のアトリエを訪ねると言っていたので同行して楽しい経験をすることができました。1日あるといっても4時には高齢者委員会の皆さんとの交流

会があるので時間までには帰ってこなければなりません。

★日本の方が優れてる

デンマーク語やスウェーデン語はおろか英語も片言の中年2人の珍道中で楽しい思い出ができました。もちろんちゃんと帰ってきましたよ。デンマークやスウェーデンのトイレは有料のところが多くて、気楽には入れない。料金は高い。これはだめだよ。人権の国じゃないか、日本はトイレはコンビニでもどこでもたくさんある。日本の方が優れてる。トイレは人権だ。服部さんと私は2人でそう叫んでいました。

本当は、もっと一緒に参加された皆さんのことも、出来事や思いも書きたいのですが際限なく、長くなるので止めておきます。皆さん大変失礼ですが、まとめて御礼申し上げます。今度、何かの機会に東京に遊びにいらしてください。私のコミュニテイ喫茶ネウボラでお待ちしています。

皆さま、マンゲタック



<ソルバンングにて>